

赤潮発生状況について

里 圭一郎・天真 正勝

赤潮情報伝達事業の一環として、県下における赤潮発生状況を取りまとめたので報告する。

なお、赤潮発生時などの情報収集、現場における赤潮の推移状況、被害発生調査等は前年と同様の方法で実施した。

結 果

表 1 に平成 11 年の赤潮発生状況を、図 1 に赤潮発生件数と被害件数の推移をそれぞれ示した。本年は 2 件の発生が認められ、前年より 4 件少なかった。また、漁業被害は発生しなかった。

Alexandrium catenella は勝浦川河口で 6 月初旬に数十細胞/ml 検出され、6 月中旬には薄い赤潮を形成した。本種は比較的低塩分時でも発生することが知られており、このときの塩分濃度は 24.9 であった。

Prorocentrum dentatum は内の海で 7 月中旬に 700cells/ml 検出された後、7 月下旬に赤潮を形成した。なお、本種による赤潮は平成 9 年にも同海域で発生している。

また、*Chattonella* は 7 月上旬に播磨灘において増殖（最高 41cells/ml）したが、着色域を形成するまでには至らなかった。

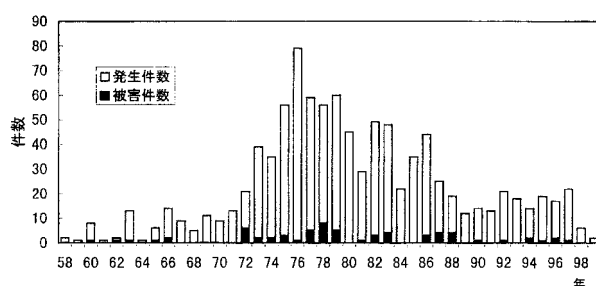


図 1 赤潮の発生件数と被害件数の推移

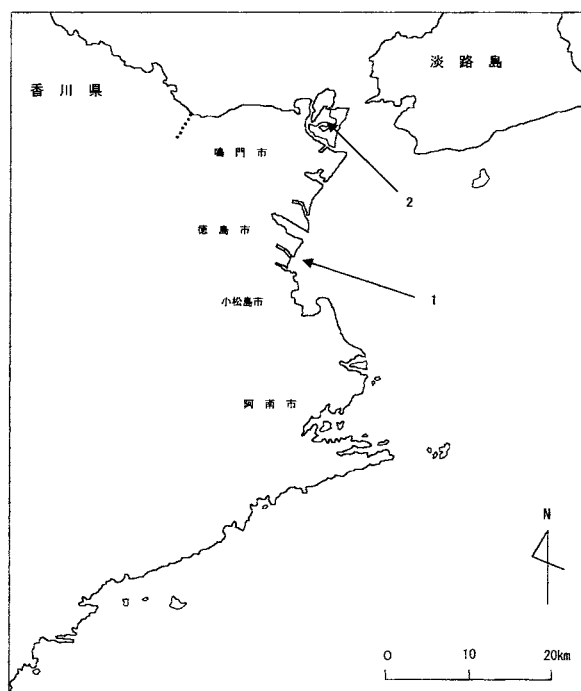


図2 赤潮形成域の分布

表1 平成11年の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種名	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)
1	6/9～6/16	8	勝浦川河口	<i>Alexandrium catenella</i>	無	30,000
2	7/20～7/25	6	内の海	<i>Prorocentrum dentatum</i>	無	10,000